

# 「ココロ合せ♡チカラ合せ」 防災ネットしょうなん

BOSAI Never Ending Tension~終わりになき緊張感

向日葵はわが街のシンボル



2024 (令和6) 年12月1日 / 第99号

あなたとご家族の生命を守る知見を備えましょう

風早北部地域ふるさと協議会

## 柏市防災行政の働き方改革を求めます

- ① もっと各地域に寄り添って欲しい
- ② 自分達の役割の明確化とチェック機能
- ③ 柏市地域防災計画の抜本的な改正

太田市長、本当に重要なんですよ!!



\* \* \* \* \*

本紙第96、97号、98号に続き、当会から市に要望したい内容の4回目(最終回)は、市の働き方改革です。当会では現状の市防災行政を市民目線で俯瞰し、このままでは決して大災害から43万市民の生命を安心して守れない、との確信に基づき、今回は、市職員の働き方への要望を以下にご案内します。本件への市の回答、特に反論を含めたコメントを期待します。

### ①職員を各近隣センターに配置して防災業務遂行を

普段の防災活動を市内各地の住民に訴えるためには、日頃からこうした人々と共に行動、活動する姿勢が必要で、それは職員が本庁舎を拠点にしては決して実現しません。市(防災安全課)はこの命題に、現状の業務遂行の傍らで、職員を各地域に派遣する余裕はない、と反応していますが、私ども住民代表の目線では、必ずしも市の担当職員がギリギリの状態に携わっているとは、なかなか思えません。各地域の要請に応じ、職員を派遣しているとする現状の体制は、姿勢が受け身であり、業務遂行のやり方として決して褒められたスタンスとはいえません。

先ずは、現在の防災担当の職員を市内の主要な(中核)近隣センター(3~4か所)に2名ずつ(計10名程度を)常時配置(身分は市民生活部併任)し、平時は近隣センター業務を他のセンター職員とともに遂行し、配置場所周辺の他の近隣センターを含めた複数の地区の防災業務にも携わることを強く求めます。

\* \* \* \* \*

### ②行政の役割の明確化とチェック機能の充実化

柏市防災行政を市民目線でチェックする役割を担うのは、当然のことではありますが、市民から選出された市長や市議会議員です。但し、こうした方々は、市全体の行政活動遂行を診る役割のため、なかなか防災分野だけに特化してとはいかないのが正直なところ。その代役を現状で担えるのは、市の防災会議ではないか?と思います。しかしながら、年間で

も限られた回数（現状は年度末 1 回限り）のため、また当該会議メンバー自体が平時多忙の役職の方で構成している現状から、市が年間で実施してきた業務、並びに新年度実施予定の業務内容をしっかり点検し、市(長)に意見できるとは到底思えないのが実情です。

私どもは訴えます。年間で最低でも四半期に一度（年間4回）の会議、或いは半年に一度で年間2回、1度の会議では数時間をかけてじっくり市の防災行政をチェックできるよう、現行の市防災会議の役割、更にはその構成メンバー（←防災に熱心な市民を加える）を見直すべきと考えます。

\* \* \* \* \*

### ③地域防災計画の構成の見直しを強く要望します

現状の柏市地域防災計画は、災害時の対応を網羅した精緻な内容で構成されていますが、本編、資料編とも膨大なボリュームのため、これを地域の防災担当者や住民に理解を求めるのは現実的でないと危惧します。

まずは、その内容から基本的な、そして重要な準備活動や行動を抜粋し、サマリー版の整備（イメージとしては本計画の5～6分の1程度）をお願いします。そのうえで、サマリー版の構成は、市等の公共機関や関係機関・組織（税金を原資に動く団体＝公助）、各地域の団体のボランティア活動（＝共助）、市民や市内で働く人々の活動（＝自助）を、わかりやすく書き分けた内容に改めることを、強く要望します。

\* \* \* \* \*

以上、柏市への要望事項を都合4回のニュース紙面でお知らせしてきました。まとめると、

- 当地域に災害時緊急医療施設の新設は極めて困難  
→発災時に大怪我をしない施策強化を
- 現状の市管理の公園等緑地をマイカー&マイテント避難場所に（緑地の新たな整備拡大を）
- 自主避難所開設の案内を市の行政無線で行って欲しい
- マイナンバーカード自動読み取り機の避難場所設置
- 市内の防災団体の防災活動状況の把握
- 市内広範囲での防災訓練の実現
- 本号で掲載の3項目
  - ✓ 市防災職員の一部を主要な近隣センターに常駐化
  - ✓ 防災行政のチェック機能を有するフォーラムの設置
  - ✓ 地域防災計画を分かりやすく見直しを